

## 飛驒の渡辺酒造店に審査委員特別賞

【北京＝安藤淳】日本酒を中国市場への輸出拡大につなげる「第一回アジア国際美酒コンテスト in China」の表彰式が二十五日、北京の日本大使館で行われ、蔵元に贈られる審査委員特別賞に飛驒市古川町の渡辺酒造店が選ばれた。

農協や酒造会社などでつくる「全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会(JRE)」などが主催。中国人の口に合う日本酒をテーマに二十四府県の六十二蔵元が出品した百三十七本の日本酒を、中国人約千人に試飲してもらった。

同酒造は六本出品したうち、純米大吟醸「蓬菜 色おとこ」など四本が金賞を受賞した。渡辺久憲社長(四十九)は「中国で和食や日本酒の広がりを感じた。甘い日本酒が好まれる

### 中国の日本酒品評会

ことも分かり非常に勉強になった」と受賞の喜びを語った。

同酒造は米国、韓国、オーストラリアにすでに進出し、昨年からは中国市場に参入、年間八百本を出荷している。最高賞のゴールドドラゴン賞には兵庫県の「極上の甘口」(大関)が選ばれた。中部地方からは三重、福井、滋賀、富山県の日本酒が金賞に選ばれた。



北京の日本大使館で、審査委員特別賞に選ばれ表彰を受ける渡辺社長(左)＝安藤淳撮影